

上杉景勝書状



縦 33.0 cm × 横 47.7 cm

上杉景勝書状は、天正7年（1579）の3月19日付で、上杉景勝が直臣である上田衆の浅間修理亮へあてた手紙です。上越市史編さん事業の古文書調査が縁となり、平成23年7月19日、財団法人宇野茶道美術館（理事長 宇野はな江さん・福井県越前市）から寄贈していただきました。

上杉謙信の死後、養子の上杉景勝と景虎が跡目を争い、これを「御館の乱」と呼んでいます。この文書には「御館の乱」末期のようすが具体的に書かれています。

天正7年3月17日に籠城する御館が落ち、景虎は鮫ヶ尾城（妙高市）へ逃れます。景勝は鮫ヶ尾城主の堀江宗親が味方になるよう働きかけ、宗親に裏切られた景虎は3月24日に自刃してしまいます。手紙の前半には、この経過が記されています。

当時、浅間修理亮は魚沼郡上田庄（南魚沼市・湯沢町）の坂戸城（南魚沼市六日町）を守備していました。書状の大半は、浅間を中心とした坂戸城衆たちへの指示で、魚沼郡のもう一つの拠点である樺之澤城（樺沢城・南魚沼市）を破却する（壊す）こと、春日山から鉄炮衆を送ったこと、城の番をしている足輕に申し付けて掃除や普請（工事）をさせることなどが書かれています。